

第1回国道137号新たな御坂トンネル整備検討会 議事概要

1. 日時

令和2年7月13日（月） 15:00～16:30

2. 場所

山梨県東山梨合同庁舎 103号会議室

3. 委員

◎砂金 伸治 東京都立大学 都市環境学部 教授

大島 洋志 日本応用地質学会 名誉会員

真下 英人 日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 所長

飯野 照久 山梨県 県土整備部 技監

標 博司 笛吹市 建設部 部長

渡辺 洋文 富士河口湖町 都市計画課 課長

◎は座長

4. 参加者

オブザーバー

松澤 尚利 国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所 副所長

事務局

山梨県 県土整備部 道路整備課

第1回国道137号新たな御坂トンネル整備検討会 議事概要

5. 議事

- (1) 地域の概要と課題
- (2) 道路交通の課題
- (3) 整備方針について
- (4) 技術的課題について
- (5) 今後の検討の進め方

6. 議事概要

- ・「新たな御坂トンネル」は、地元市町の意見も踏まえ、可能な限り短時間で通行でき、地域・道路交通の課題を解消するため、「地域高規格道路に準じたルート案」を整備方針とする。
- ・現トンネルの施工実績を活用するため、既存のトンネルに沿ったルート案を基本に検討するとともに、今後、断層と大量湧水発生との位置関係を把握するための調査を行うことや、地山の強度や塑性地圧に対する検討が必要である。
- ・交通量の多い国道直下を小土被りで交差する区間については、十分な調査を行い施工方法を検討する必要がある。
- ・現トンネルの直下を通過する区間では、施工実績から概ねの地質は想定可能だと考えられるが、その他の区間は地質状況が読めないため、十分な調査が必要である。
- ・防災上の観点より避難坑の整備が必要だが、避難坑の掘削情報を十分活用し、本坑の設計、施工計画を立案することが重要である。
- ・地元では「新たな御坂トンネル」の整備に伴う地下水の低下により配水池への影響が懸念されるため、水資源について十分な調査が必要である。